

私たちの金沢大学

2019

大学を支えてくださるみなさまに「大学の今」を紹介します



平成 30 年度 主な行事

4月	7日:入学宣誓式
5月	20日: 金沢大学 SOLTILO FIELD オープニングセレモニー開催 31日:名誉教授称号記授与式
6月	6日:特別食堂「YABU&Café 丹」オープン 9日:金沢大学国際賞授賞式・記念講演会開催 9日:新入生の保護者懇談会開催 23日:女性研究者等研究支援制度成果報告会開催
7月	7日:ステーキホルダー協議会開催 25日:北陸三県高等学校長との懇談会 30日:(株)ダイセルと産学連携の包括的連携に関する協定締結
8月	7日:理工学域「理学の広場」 8日:理工学域「小中学生のためのものづくり教室」 9日:キャンパスビジット 2018 10日:サマーカレッジ 2018 10日:人間社会学域「スタディプログラム」 21日:国立六大学バンコク事務所開所式(バンコク市)
9月	4日: 文科省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」に採択 17日:ドイツ デュッセルドルフ大学内に金沢大学デュッセルドルフ事務所を設置 26日:9月期学位記授与式 29日:ひらめき☆ときめきサイエンス 29日:金沢大学ステーキホルダー協議会 in 東京開催

10月	1日:10月期入学宣誓式 5日:附属中学校創立 70 周年記念式典・記念講演開催 8日:タタールスタン共和国大統領等が来学・記念植樹 27日:ホームカミングデー・留学生ホームカミングデー 27日:ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー 27~28日:金大祭・医学展 31日:県と防災分野における連携に関する細目協定締結
11月	3日:金沢大学多目的グラウンドオープニングセレモニー開催 15日: タイ プリンソブソククラ大学のハジャイ, スラタニ, ブーケット 3 キャンパス内に金沢大学リエゾンオフィス (海外事務所) を開所
12月	20日:金沢大学留学生懇談会開催 22日:金沢大学コンテスト (超然文学賞・日本数学 A-lympiad) 表彰式開催
1月	21日:(株)ダイセルと包括連携協定キックオフシンポジウム開催
2月	20日:イノベーションシンポジウム 2019 開催 25~26日:平成 31 年度一般入試 (前期日程) 27日:金沢大学国際機構 SDGs ジオ・エコパーク研究センターと金沢大学白山白峰セミナーハウスの看板上掲式 28日:NEXCO 中日本金沢支社と「産学連携の包括的推進に関する協定」締結
3月	12日:平成 31 年度一般入試 (後期日程) 18日:金沢大学志賀町教育拠点「志賀学舎」開所式 22日:学位記・修了証書授与式



金沢大学の校章は、アカンサスの葉と「大学」の文字を図案化したデザインになっています。



表紙の写真は、「輝く金沢大学フォトコンテスト」に応募いただいた写真。テーマは「秋の角間」です。

目次

学長メッセージ／金沢大学の未来に向けた取り組み	P2
新 YAMAZAKI プラン 2018	P3
教育の特色ある取り組み	P4-6
特色ある大学院教育	P7
附属学校園の特色ある取り組み	P8
研究の特色ある取り組み	P 9-12
産学連携	P13
附属病院の特色ある取り組み	P14
社会貢献の特色ある取り組み	P15-16
留学・国際交流の状況	P17-18
学習支援	P19
経済支援	P19-20
進学・就職状況	P21
入試情報	P22-23
財務状況	P24-25
施設整備	P26
ガバナンス体制／金沢大学国際賞／その他	P27
附属図書館／資料館	P28
同窓会／金沢大学基金	P29

金沢大学校歌

作詞 室生犀星
作曲 信時 潔

あま 天つつなみ けぶらひ
あま 天そそる 白ねの
ほくほう 北方のみやこに学府のありて
さん 燦たる燈をかかげたり
人は人をつくるため
のろしをあげ
えいち 睿智の時間を磨く
はえ 栄光ある人間をつくらむと
しんふうぶんか 新風文化の扉は開かれ
あたらしの人 世代にあふれ
手はつながれ 才能は結ばれ
こぞりてわが学府につどへり
こぞりてわが学府につどへり

学長メッセージ

皆が頑張る、地域に愛され、世界に輝く金沢大学の実現を目指し

金沢大学は、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むことを金沢大学憲章で掲げています。第三期中期目標期間の初年度（平成 28 年度）には、世界と伍して卓越した教育研究を展開する、「世界卓越型」大学を目指すことを選択し、全学を挙げて改革を推進しています。現在、第 4 学域の構想や大学院の高度化、KUGS 特別入試の開発といった教育組織改革の具体的な計画を進めております。

また、国際化、グローバル人材の育成では、スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）で実施する各種プロジェクトと、大学の世界展開力強化事業ロシアプログラム等により、着実な成果を見せつつあります。

研究力強化では、平成 29 年度に採択された世界トップレベル研究拠点形成プログラム（WPI）のナノ生命科学研究所（NanoLSI）における研究体制、支援体制を軌道に乗せ、研究成果の創出に向けた本格的な活動が始動しました。

地域貢献の重要な一翼を担う附属病院については、臨床研究中核病院の指定を目指し、地域医療を支える北陸地域の中核病院となるべく、地域医療機関等との連携体制の強化を推進して参ります。

プロフィール / 金沢大学長 山崎光悦（やまざき こうえつ）

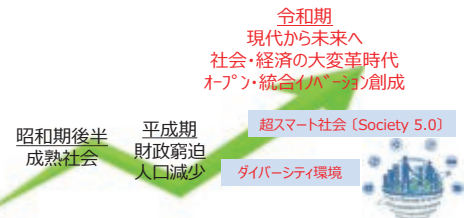
工学博士。1951 年 12 月、富山県小矢部市生まれ。金沢大学工学部卒業，同大学院工学研究科修士課程修了。金沢大学工学部助手，講師，助教授，教授を経て，2014 年 4 月に学長就任。専門は機械工学・設計工学。



金沢大学の未来に向けた取り組み

社会を先導するリーダー養成に向けた新学域・学類の設置構想

大きく変わろうとしているこれからの社会では、文理を問わない幅広い分野の知見と、社会を変革しようとする強い意欲を併せ持つ、“社会変革を先導するリーダー”となる人材が不可欠です。本学では、こうした人材の養成を目指し、令和 3 年度に新学域・学類の設置を構想しています。この新学域・学類では、文系・理系を問わない高校生をはじめ、留学生や現に企業で活躍している社会人学生も積極的に受け入れ、多様な学生が切磋琢磨する環境の中で、各分野における最先端の知見と社会ニーズを取り入れた文理融合教育を実践し、社会をリードする人材を輩出します。



設計製造技術研究所の設置

令和元年 6 月、理工研究域先端製造技術開発推進センターを発展的に改組し、新たな研究所として設計製造技術研究所を設置しました。本研究所は、スマート設計生産技術の開発・社会実装の研究を実施することにより、オンデマンド“モノづくり”を支える「スマート設計生産システム」※の構築を目指しています。

加えて、主要な生産加工技術を担う研究者が多数在籍している強みを活かし、国内外の研究機関や企業と連携しながら「スマート設計生産システム」の開発や社会実装を推進していきます。

※「スマート設計生産システム」…これまでの大量生産方式ではなく、個人の特性、必要条件、嗜好、感性に対応した個別設計と個別生産を速やかに行い、低コストで供給するシステム

新 YAMAZAKI プラン 2018

本学では、全学的な大学改革プランとして、「YAMAZAKI プラン 2014」及び「YAMAZAKI プラン 2016」を策定、公表し、世界的な教育研究成果の創出に向けた様々な改革を推進してきました。

アクセスは
こちらから→



一方、第4次産業革命・Society5.0と称される情報科学技術の飛躍的進展や、少子高齢化と人口減少の進行等、社会システムそのものに大変革がもたらされようとしています。

こうした革新を追い風にしながら、世界を牽引し、地方創生にも寄与する国際的な教育研究拠点を形成するため、新たに「新 YAMAZAKI プラン 2018」を、平成30年4月に策定、公表しました。

この「新 YAMAZAKI プラン 2018」に掲げる以下の施策に取り組み、自主的、自律的な大学改革を加速させていきます。

戦略1 研究の先鋭化と新たな強みとなる新領域・融合分野の創出による世界的研究拠点の形成

Vision I 先進的・独創的研究の推進及び多様な基礎研究の充実

Vision II 研究力強化を促進する支援体制の整備

- ・世界トップレベル研究拠点（WPI）や共同利用・共同研究拠点等における研究活動の先鋭化
- ・超然プロジェクト・先魁プロジェクト等を通じた優位性のある研究や異分野融合研究への組織的支援

戦略2 グローバル社会の中核的なリーダーとして活躍する「金沢大学ブランド」人材の育成

Vision III 大学院教育の高度化と国際化によるイノベーション人材の育成

Vision IV 学士課程の教育改革によるグローバル人材の育成

Vision V 入学から卒業までの徹底した学生支援

- ・世界トップレベル研究拠点（WPI）の実績を活かした新たな博士レベルの学位プログラム創設
- ・GS科目等の体系的で幅広い教養の修得による KUGS（金沢大学〈グローバル〉スタンダード）の体現
- ・グローバルサイエンスキャンパス事業等を活用した高大連携の強化と特色ある新たな入試等の創設
- ・KUGS サポートネットワーク等を活用した全学的な学生支援体制の充実・強化

戦略3 国際的な連携ネットワークの形成と頭脳循環の推進

Vision VI 強力な国際競争力を備えたネットワークの活用による人的交流の拡大

- ・タフツ大学をはじめとする世界トップレベル大学との組織対組織の交流拡大
- ・若手研究者や留学生・外国人学生を含めた学生の海外大学との双方向交流の拡大

戦略4 世界と地域との環流による社会貢献・社会実装

Vision VII 大学をハブとした社会のあらゆるセクターとの有機的連携

Vision VIII 大学が有する知的資源等へのアクセシビリティの向上

- ・大学が有する知的資源等を利用した社会と大学との協働による持続可能社会の構築に資する実証型研究プロジェクト（例：自動運転システム）や連携事業の実施

戦略5 積極的なガバナンス改革による戦略的マネジメントの推進

Vision IX 大学改革・機能強化を推進する大学運営

Vision X 戦略的・効果的な財政運営の推進

Vision XI グローバル化に対応する教育研究環境の整備

- ・女性・若手研究者等を含む教職員の活躍を後押しする採用・配置や能力開発と適切な人事評価
- ・ステークホルダー協議会やホームカミングデー等を通じた関係機関との対話・連携の強化

戦略6 高度臨床研究の展開と中核的な医療拠点としての機能強化に向けた附属病院改革の推進

Vision XII 臨床研究の推進と先進的医療を担う人材の育成

Vision XIII 地域中核病院としての機能強化

- ・先端医療開発センター等を活用した先進医療・医師主導治験の推進と臨床研究の積極的支援
- ・CPDセンター等を活用した医療従事者の専門教育・安全教育・リカレント教育の実施
- ・高度医療を提供する地域の中核病院としての医療安全管理体制の強化と関連病院との連携強化

教育の特色ある取り組み

学域・学類制

本学では、学生一人一人の成長を無理なく促して、社会に必要とされる能力を身に付けさせるため柔軟な進路選択に適した教育のしくみを用意しています。

「学域・学類」という幅広い枠組みでの入学

入学の基本的な単位を「学域・学類」とすることで、「学部・学科」より幅広く大きな枠組みで学びをスタートできます。そこで学びの基礎を固めつつ、自分が本当にやりたいテーマを探ることができるため、入学するときに何を自分のテーマにするか、必ずしも決め込む必要がありません。

〔注：機械工学類、フロンティア工学類及び電子情報通信学類は3学類一括の学生募集、薬学類と創薬科学類は2学類一括の学生募集、保健学類は専攻単位での学生募集〕

基礎を学んでから専門領域を決める「経過選択制」

人間社会学域や理工学域では主に2年次に、一人一人が自分の志望や適性に合わせて専門領域（コース）を決めます。医薬保健学域では、薬学類か創薬科学類かの選択を3年後期に行います。この「経過選択制」によって、基礎基本を学びながら、ゆっくりじっくり、自分のテーマを選ぶことができます〔注：医学類と保健学類は資格取得の関係から未導入〕。また、入学後に異なる学問分野に興味を持った場合は、「転学類制度」や「転コース制度」により進路変更することも可能です。

学類再編

平成20年度の学域学類制への再編改組から10年以上が過ぎ、これまでの教育実績等を検証し、ミッションの再定義等を踏まえ、機能強化を図るため教育組織等の改革を計画的に進めています。

本学の強みを活かし時代の要請に応えるべく学類の再編を行い、学域・学類のダイナミックな交流のもと、未来志向の研究に積極的に取り組み、質の高い学びを提供しています。

平成30年度には、人間社会学域経済学類、地域創造学類及び国際学類において、コースの再編、入学定員の見直しを行いました。また、理工学域では、機械工学類、電子情報学類、環境デザイン学類及び自然システム学類を、機械工学類、フロンティア工学類、電子情報通信学類、地球社会基盤学類及び生命理工学類に再編改組しました。

金沢大学<グローバル>スタンダード (KUGS)

グローバル化が不可逆的に進行する現在の国際社会において、大学憲章に掲げる基本的な教育目標を実現するために、本学が育成する人材の具体的な姿として、「金沢大学<グローバル>スタンダード」を定め、これを実現するためのさまざまな教育を行っています。

5つのスタンダード

各人の立ち位置に課された人類の一員としての自己の使命を国際社会で積極的に果たし、知識基盤社会の中核的なリーダーとなって、常に恐れることなく現場の困難に立ち向かっていける能力・体力・人間力を備えた人材を育成します。

金沢大学<グローバル>スタンダード

基準1	基準2	基準3	基準4	基準5
自己の立ち位置を知る	自己を知り、自己を鍛える	考え・価値観を表現する	世界とつながる	未来の課題に取り組む
鋭い倫理感と科学的知見をもって、人類の歴史学的時間と地政学的空間の中に立つ自己の位置、自己の使命を主体的に把握する能力	自己を知り、その限界に挑戦し、知的冒険と心身の鍛錬を通して常に自己の人間力を磨き高めていく能力	論理的構成力や言語表現力を駆使して概念やアイデアを明確に表現し、かつ自己の感性や価値観を的確に他者に伝える能力	他者への深い共感に基づいて異文化と共生し、各人にとっての自国と郷土の文化への自覚と誇りをもって、世界と積極的につながっていく能力	科学技術の動向、自然環境変動、持続可能性などの多角的視座から地球と人類、国際社会と日本の未来を総合的に予測し、未来の課題に取り組んでいく能力

国際基幹教育院

基幹教育を強固に推進することによって、本学の教育全体の高度化と国際化を牽引することを目的として、平成 28 年度に国際基幹教育院を設置しました。

本教育院に専任教員を配置し、「GS 教育系／部門」、「外国語教育系／部門」、「高等教育開発・支援系／部門」に、「国際教育部門」及び「リメディアル・基礎教育部門」を加えた 3 系・5 部門を編成し、組織的な教育研究活動を行っています。

また、共通教育科目と学問的に深い関わりがある学類等の専任教員が授業担当教員として協力することで、授業内容の標準化を図るとともに、本学の新しい基幹教育（共通教育）の実施に責任を持ち、KUGS を基軸とした、学士課程教育の基盤をなす授業科目である Global Standard 科目（GS 科目）及び Global Standard 言語科目（GS 言語科目）を中心とした体系的なカリキュラムを実施しています。全ての GS 科目にアクティブ・ラーニングを取り入れ、学生の自学自習を促しています。

平成 30 年度から「文系後期一括、理系後期一括」入試による入学者を総合教育部に受け入れる等、本学における教育改革のフラグシップとしての役割を果たしています。

「文系後期一括、理系後期一括」入試

平成 30 年度入試から、「文系後期一括、理系後期一括」入試を実施しています。

この一括入試の特徴は、入学後、大学で学びながら学類を選択できることです。入学後 1 年間、国際基幹教育院総合教育部に所属し、文系・理系という大きな枠組みで、さまざまな分野を広く学び、十分に考えた上で自分の専門を決めることができます。

大学の中で学びながら身近な環境でさまざまな分野の教育・研究活動を知り、学類所属の学生と交流しながら同じ学生の目線でその分野の魅力を聞くことができます。学類への移行時期は、1 年終了時（2 年次から学類に所属）としており、本人の希望と入学後の移行対象科目の成績等に基づいて、文系は人間社会学域、理系は理工学域又は医薬保健学域（薬学類を除く）の所属学類（保健学類は専攻まで）を決定します。学類移行にあたり、担任教員、アカデミック・アドバイザー、学類連絡担当教員が連携を取りながら複数回の個人面談を行うなどきめ細やかな支援を行っています。

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業とは、世界トップレベルの研究を行う大学や国際化を牽引する大学を重点的に支援する文部科学省の事業です。本学は、平成 26 年度「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」をテーマにこの事業に採択されました。東アジアの知の拠点としての機能をこれまで以上に強化するため、国際化に必要な大学改革を進めます。その結果としての 10 年後の金沢大学の姿を以下の 3 つで表します。

- ① 独自のグローバル人材育成スタンダードに基づく質の高い教育を提供する大学
- ② 世界で活躍する「金沢大学ブランド」の人材を輩出し、日本のグローバル化を牽引する大学
- ③ 東アジアの地において世界の高等教育研究ネットワークの中核に位置する大学

10年後の目標値	2013年	2017年	2023年
外国人教員及び海外で学位取得・教育研究歴をもつ教員の比率	17.3%	21.8%	50%
全学生に占める外国人留学生の割合	7.0%	9.5%	20%
日本人学生に占める留学経験者の割合	1.8%	→ 6.1%	→ 11.60%
英語による授業〔大学院課程〕	3.9%	33.8%	100%
英語による授業〔学士課程〕	2.4%	10.1%	50%
学生の卒業時の語学レベル（英語）を設定	2023年にTOEIC 760点、TOEFL-iBT 80点		

教育の特色ある取り組み

理工学域能登海洋水産センターの新設

平成 31 年 4 月に、海洋生物資源の基礎及び応用研究を行う学生及び研究者の拠点として、海に隣接した滞在型の教育研究施設を提供するとともに、水産資源確保技術の高度化のための研究を推進し、新技術・新産業を創出できる人材の育成に資すること及び能登半島の水産業への貢献を目的に、能登町から旧ホテルの建物及び敷地の整備・寄附による支援を受け新設しました。



九十九湾を望む能登海洋水産センター

未来を拓く 金沢大学コンテスト創設

金沢大学では、平成 30 年度に高校生対象の 2 つのコンテストを創設しました。

世界的課題の解決を、卓越した数学と英語の力を持った高校生チームで挑戦する「日本数学 A-lympiad」と、特異な文学の才能「言葉の力」で将来人間の可能性を新たに切り拓くことのできる人材の努力と才能、志を称え励ます「超然文学賞」です。

この 2 つのコンテストに全国から前途有望な高校生が挑戦し、「日本数学 A-lympiad」7 チーム、「超然文学賞」9 名を表彰しました。



第 1 回金沢大学コンテスト受賞者

大学教育再生加速プログラム (AP)

大学教育再生加速プログラム (AP) とは、国として進めるべき大学教育改革を一層推進するため、新たな方向性に合致した先進的な取組を実施する大学を支援する文部科学省の事業です。本学は、平成 26 年度「学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の総合的な改革」をテーマに、この事業に採択され、以下の 3 つの施策に取り組んでいます。

- ①学域・学類の中核科目群でのアクティブ・ラーニングの深化・充実
- ②アクティブ・ラーニングに適した学修環境の活用・展開
- ③学修過程・成果の可視化による学修評価の定量的評価 (IR)

また、授業時間内外で履修者のアクティブ・ラーニングの支援をする学生スタッフ、アクティブ・ラーニング・アドバイザー (ALA) 制度を活用しています。履修者の学修を充実させ質を高めること、そして ALA 自身がさまざまな知識や能力を高めることを目的としています。

人間力強化プログラム 学長と行く合宿シリーズ ～地域「超」体験プログラム～

己を鍛え、己を磨き続ける学生生活を送るために、仲間と苦楽を共にする環境下で、体力・精神力の重要性と多様な価値観の存在、社会の一員であることの自覚を目的としています。

平成 27 年度から 1 単位科目として本格導入しました。アクティブ・ラーニングを取り入れた事前講義を実施し、民泊・坐禅・学長講義・ボランティア活動をプログラムとする合宿を毎年 4 回 (珠洲, 小木, 白山麓, 五箇山) 実施しています。

平成 30 年度は 97 名が参加しました。



白山合宿 林業体験
(クロモジの伐採・収穫)

グローバルサイエンスキャンパス (GSC)・ジュニアドクター育成塾事業

科学技術振興機構 (JST) が支援する、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的として、体系的な理数教育プログラムの開発・実施などを行う事業です。

本学は、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生など対象とするグローバルサイエンスキャンパス (GSC) に、平成 28 年度「世界でかがやく科学技術イノベーション人材の育成」をテーマに採択を受けました。

また、平成 29 年度には、理数・情報分野の学習等を通じて、高い意欲や突出した能力を有する小中学生を対象とするジュニアドクター育成塾に、「未来の科学・技術を担う探究意欲と科学を楽しむ心をもった子ども (未来の科学者) の育成」をテーマに採択を受けました。

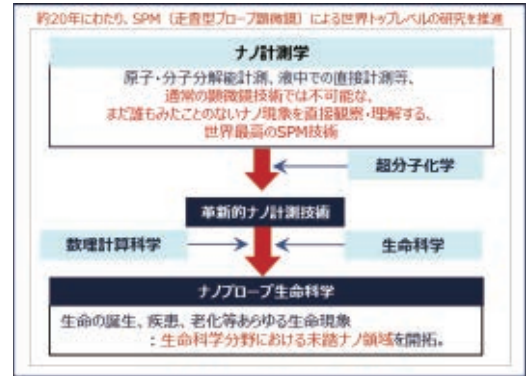
平成 30 年度ジュニアドクター育成塾の全国研究発表会 (サイエンスカンファレンス 2018) に本学受講生 3 名が参加し、3 名全員が分野賞を受賞しました。

特色ある大学院教育

高度な専門性を有する人材の育成に向け、さまざまな大学院教育を行っています。

WPI 拠点の研究実績等を基盤とした、ナノ生命科学分野に関する卓越研究者養成

金沢大学は平成 29 年度に「世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI)」の採択を受け、「ナノ生命科学研究所 (NanoLSI)」を設置しました。NanoLSI では、本学が誇る世界最先端の SPM (走査型プローブ顕微鏡) 技術と超分子化学技術を融合・発展させ、様々な生命現象の根本的な理解に向けた新学問領域「ナノプローブ生命科学」の創出を目指した研究を行っています。こうした研究実績を基盤に、世界最先端のナノ計測の知識に加え、超分子化学分野、生命科学分野、数理計算科学分野に関する知見や感性を併せ持ちながら、未踏ナノ領域を切り開く研究人材の養成を目的として、令和 2 年 4 月に、新学術創成研究科ナノ生命科学専攻博士前期課程及び博士後期課程の同時設置を予定しています。



科学技術イノベーションに挑む！異分野融合で挑む！

平成 30 年度に、**大学院新学術創成研究科**融合科学共同専攻を設置しました。

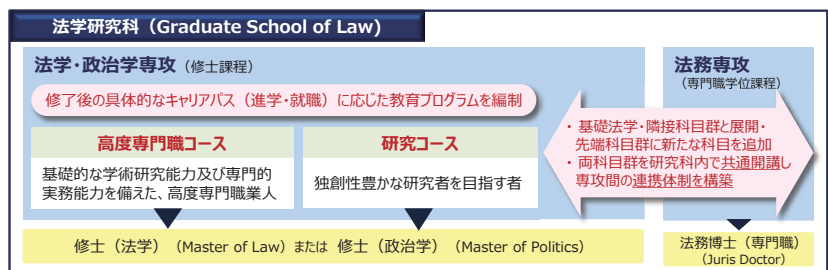
現代社会において、卓越した発想と行動力を基に、社会を力強く導いていけるような「科学技術イノベーション人材」を育成するため、金沢大学と北陸先端科学技術大学院大学の2大学で設置する共同大学院です。イノベーションの源泉である「新たな知」の創造は、複数の科学分野の“融合”から生まれるとの考えから、新しい研究領域に挑戦する“融合型大学院教育モデル”の構築を目指します。

令和 2 年 4 月に、融合科学共同専攻博士後期課程の設置を予定しています。



社会ニーズに応える“法学・政治学分野の高度専門職業人”養成

金沢大学では、法務研究科法務専攻 (専門職学位課程) において法曹界を目指す人材を、人間社会環境研究科法学・政治学専攻 (博士前期課程) において主に研究者を目指す人材を、それぞれ養成してきました。しかし、現代社会においては、様々な、新しい形態の法的紛争が発生しており、企業や自治体において適切な法的判断・法制度設計を行う



ことができる高度専門職業人の必要性が増してきています。こうした背景を踏まえ、令和 2 年 4 月に、従来の 2 研究科体制から、「法」を基軸とした 1 研究科「法学研究科」へと改組を予定し、学生のキャリアパスに応じた教育プログラムを編成することにより、法学・政治学分野における高度専門職業人材の養成を目指します。

附属学校園の特色ある取り組み

5 つの附属学校園が設置されている数少ない総合大学です。

附属高校：WWL コンソーシアム構築支援事業拠点校

平成 26 年度から 5 年間、文部科学省「スーパーグローバルハイスクール (SGH)」の指定を受け、研究開発を推進してきました。

【平成 30 年度に実施した主な取組】

- ① 「地域課題研究」企業向けポスターセッション
- ② 附属・金沢泉丘・金沢二水三校合同課題研究発表会
- ③ 北信越 SGH フォーラム

平成 31 年度から 3 年間は、文部科学省「WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) コンソーシアム構築支援事業」の拠点校に採択されました。「持続可能な世界を実現し、Society5.0 を牽引するグローバル・リーダーの育成」を目標に、金沢大学を管理機関として、北陸圏域内の高校、海外の高校、社会との 3 つのアライアンスを確立し、アドバンスト・ラーニングを促進します。



SGH, アソシエイト7校による北信越フォーラム

附属幼稚園：里山自然体験による教育

年長組が年間を通じて角間の里山ゾーンを活用し、自然体験活動に取り組んでいます。自然インストラクター、農業従事者、研究者、教師が協働した指導のもと、幼児が自然との関わりを学んでいます。



里山で自然と触れ合う幼児たち

附属小学校：よりよい未来を志向する子の育成

令和元年度は、実践教育研究として研究主題「よりよい未来を志向する子の育成」、副題～未来へいかす「決める」～の 3 年目に取り組みます。子どもが、根拠をもって自分なりの思いや考えを表出し、他との関わりにより、多様な視点から自らの思いや考えをよりよいものへと変えて行動できるよう、“子ども自身が決める授業づくり”の実績を上げていきます。



予想を確認しながら実験する児童

附属中学校：伝統文化教育を通してグローバル人材の育成

平成 29 年度から、国立教育政策研究所 教育課程研究校 (2 年間) の指定を受け、全ての教科等で伝統文化教育に取り組みました。最終的な目標は一人一人の生徒がグローバル社会で生きるために必要な資質・能力を身に付けることです。自国の文化を愛するとともに、他国の文化を理解・尊重し、平和な世界の形成者となる人材の育成を目指しています。今年度は、最終年次として、より高い目標を設定し、研究の成果をより広く発信していく予定です。



能楽師の方をお呼びして、日本の古典芸能に触れる生徒

附属特別支援学校：新学習指導要領に対応した学習方法の探求

文部科学省「令和元年度特別支援教育に関する実践研究充実事業」を受託し、新学習指導要領に示される資質・能力を育成する学習や評価の在り方を、地域の方との協働活動や他団体との交流及び共同学習を通じて探求しています。その成果を研究フォーラムや教育研究会等で広く発信します。



地域の方と災害時の調理実習をする高等部生徒

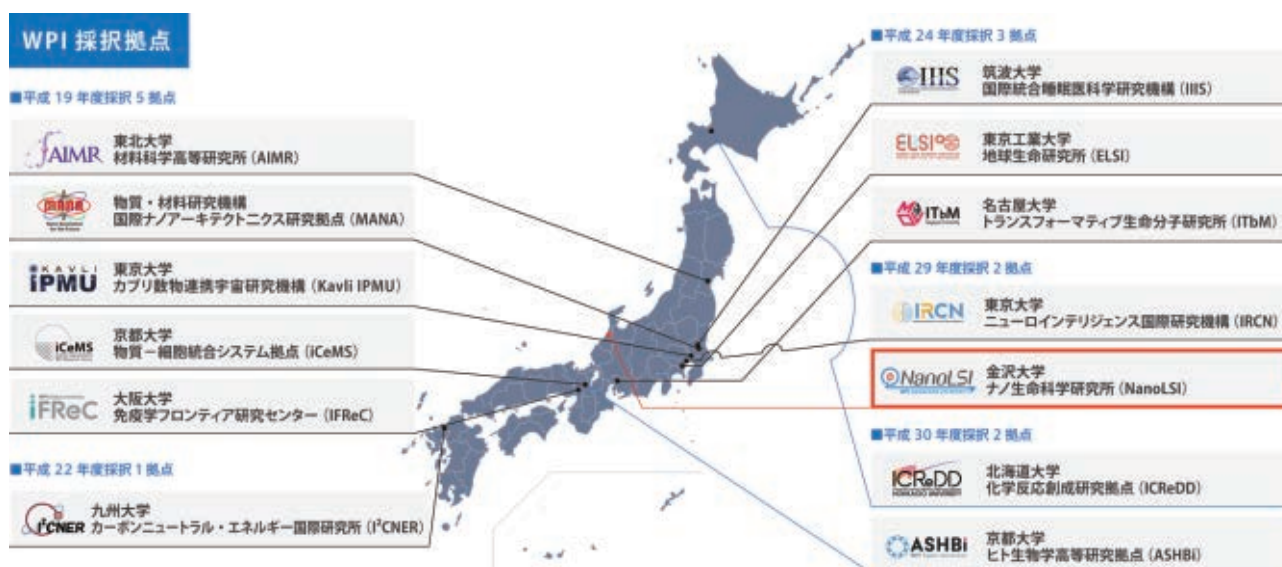
研究の特色ある取り組み

これまで誰もみたことのない生命現象を、観る、そして制御する

世界トップレベルの研究拠点形成へ — ナノ生命科学研究所 —



金沢大学は、平成 29 年度に「世界トップレベル研究拠点プログラム」(以下、WPI)に採択され、「ナノ生命科学研究所」(Nano Life Science Institute (WPI-NanoLSI), 以下『NanoLSI』)を設立しました。WPIとは、平成 19 年度から文部科学省が実施している、全世界から第一線の研究者が集まる優れた研究環境と世界最高水準の研究を誇る「世界から目に見える研究拠点」の形成を目指す事業です。



プログラム詳細はこちら：<https://www.jsps.go.jp/j-toplevel/>

NanoLSI では、1メートルの10億分の1、ちょうど分子や原子のサイズである「ナノ」の世界を舞台に、ナノスケールのものを観察できる最先端の「走査型プローブ顕微鏡技術」を核として、ナノ計測学、生命科学、超分子化学、数理計算科学間における異分野融合研究を推進します。近い将来、生きた細胞の内部や表層を直接観察し、分析し、さらには操作することができる世界初の「ナノ内視鏡(ナノプローブ)技術」を開発し、この技術によって生命の誕生や老化、「がん」等の疾患など、未だその実態が解明されていない生命現象の仕組みを根本的に理解し、解明することを目指します。

令和2年度には、角間キャンパス南地区に研究者が一つの建物に集結するアンダーワンルーフ型の新しい研究棟が完成する予定です。オープンな環境で分野の枠を超えた研究のさらなる加速が期待されます。



ナノ生命科学研究所棟 完成予想図(外観)

第2回国際シンポジウムを開催

平成30年11月19日に、カンバーランドホテル(イギリス・ロンドン)で第2回国際シンポジウムを開催し、約50名が参加しました。NanoLSIの連携拠点であるインペリアル・カレッジ・ロンドンからの参加者をはじめとする欧州の研究者らは、講演やポスター展示を通してNanoLSIとその研究に関する理解を深めました。休憩時には参加者同士の活発な交流が見られ、国際的な研究ネットワークの構築に資する有意義な機会となりました。



WPI 拠点として初めて海外で開催

研究の特色ある取り組み

世界的研究拠点を目指す

— 超然プロジェクト —



世界的な研究拠点を形成し全学的な研究力強化につなげることで「世界に誇る金沢大学」を実現するため、平成 26 年度から「超然プロジェクト」を実施し、平成 30 年度までに 5 プロジェクトに対し支援を実施してきました。平成 29 年度には、このうち 3 プロジェクトを基盤とした「ナノ生命科学研究所」構想が、文部科学省「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択されました。

令和元年度からは新たに下記 3 件のプロジェクトを対象として、優位性のある研究領域を重点的に支援しています。

高等哺乳動物を用いた脳ダイナミクスの先導的研究拠点の形成

プロジェクトリーダー 医薬保健研究域医学系 教授 河崎 洋志



太平洋西部縁辺海域における越境汚染の空間変動と

ヒト・生態系への影響評価研究

プロジェクトリーダー 環日本海域環境研究センター 教授 長尾 誠也



古代文明の学際研究の世界的拠点形成

プロジェクトリーダー 新学術創成研究機構 教授 河合 望



大学の枠を超える

— 共同利用・共同研究拠点 —

文部科学省は、「我が国全体の学術研究の更なる発展のためには、国公立大学を問わず大学の研究ポテンシャルを活用し、研究者が共同で研究を行う体制を整備することが重要」とし、拠点認定を行っています。平成 31 年 4 月現在、国立大学では 74 拠点が認定され、本学は次の 2 拠点が認定されています。

がん進展制御研究所

全国の国立大学附置研究所の中で唯一の「がん研究」に特化した研究所です。平成 22 年度に「がんの転移・薬剤耐性に関わる先導的共同研究拠点」として認定され、医学・薬学・獣医学及び理工学の幅広い分野の研究者が集結し、がんの悪性化機構の本態解明とその制御による先制医療の実現を目指した研究を推進しています。



がん進展制御研究所

環日本海域環境研究センター

金沢大学の地理的な特色を生かして、環日本海域から東アジアにおける種々の環境問題の科学的研究による解決に積極的に取り組んでいます。平成 28 年度から「越境汚染に伴う環境変動に関する国際共同研究拠点」に新たに認定され、これまでの大気・海洋・陸域ごとの研究を統合して先進的調査研究を推進する「統合環境学」を創成し、研究成果を世界に発信しています。



環日本海域環境研究センター・臨海実験施設

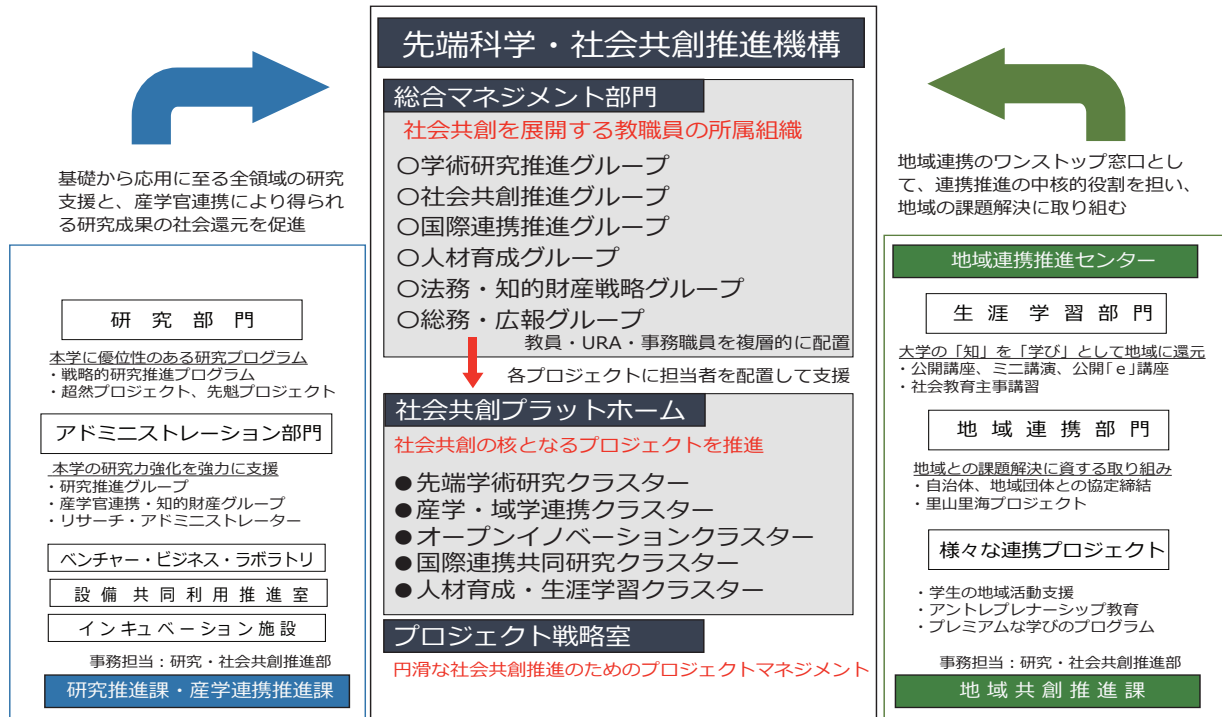
研究の特色ある取り組み

国内トップクラスの研究支援

— 先端科学・社会共創推進機構（FSSSI） —

本機構は、本学の研究力強化と本学が有するリソースを産業、地域振興、行政、人材育成、医療等、社会のあらゆる領域に還元し、多様なセクターとの実効的な社会実装の推進を目的として、平成31年2月に設置したものであり、これまでの「地域連携推進センター」と「先端科学・イノベーション推進機構」を再編・統合したものです。

新たな時代を見据えた新技術や研究成果の社会実装、人生100年時代に向けた人材育成や新たな学びの提供、地域との連携による様々な課題の解決など、大学から地域社会への「知」の還元を、教員とURA、事務職員で構成するグループやプロジェクトチームが戦略的に推進します。



次世代の材料開発に挑む

— ナノマテリアル研究所 (NanoMaRi) —

本研究所は、優れた省エネ・創エネ性能を発現する材料やデバイスの開発を目指し、本学の強みである技術・研究を結集して平成30年8月に設立したものです。

超分子は、個々の分子では得られない特異な性質・構造を有し、さまざまな材料への応用が期待されています。

現在は5つのグループが組織され、個々の研究課題に取り組みながら、研究所全体としてスマート社会実現に貢献する革新的なナノ材料・デバイスの開発を進めています。

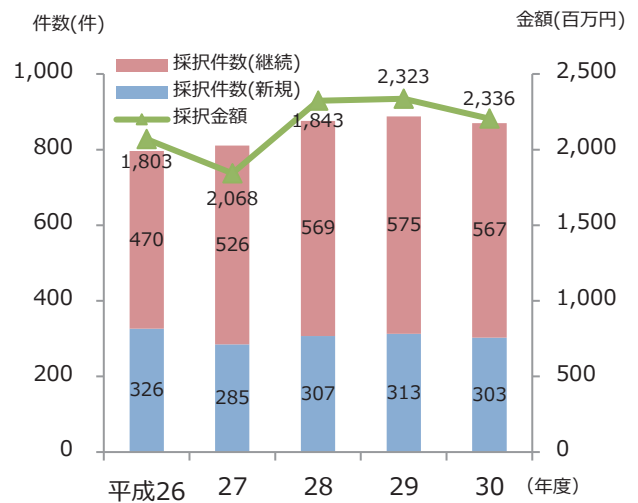


研究の特色ある取り組み

科研費採択状況

科研費は、人文・社会科学から自然科学まで、基礎から応用に及ぶあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）の発展を目的とする、我が国最大規模の研究助成制度です。本学では、科研費獲得に向けた支援を全学的に行っており、平成30年度科研費の採択件数は、870件（うち新規採択303件）となりました。

平成30年度の採択件数は、いわゆる旧六大学（金沢大、千葉大、新潟大、岡山大、長崎大、熊本大）の中で、平成28年度、平成29年度に続き1位となりました（採択金額は2位）。なお、国内研究機関での採択件数は13位（新規のみは16位）です。



主要公募事業の採択実績

文部科学省事業をはじめとする各種公募事業の採択を受け、先進的な研究活動を行っています。以下は、平成30年度に採択された主な実績です。

地域イノベーション・エコシステム形成プログラム（文部科学省・平成30年度～令和4年度）
振動発電を用いたセンサの事業化に向けた研究開発計画 <金沢大学・石川県>

理工研究域電子情報通信学系・准教授 上野 敏幸

戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第2期「自動運転（システムとサービスの拡張）」
 （国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構・平成30年度～令和4年度）
自動運転技術（レベル3、4）に必要な認識技術等に関する研究 <金沢大学・中部大学・名城大学>

新学術創成研究機構・教授 菅沼 直樹

金沢大学が誇る研究者

— 平成30年度の主な受賞 —

賞名	所属・職名	氏名
平成30年度文部科学大臣表彰・科学技術賞（開発部門） 可搬式で高速高性能なX線応力測定装置の開発	人間社会研究域人間科学系・教授	佐々木 敏彦
平成30年度文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門） 内分泌臓器としての肝臓の研究	医薬保健研究域医学系・教授	篁 俊成
平成30年度文部科学大臣表彰・科学技術賞（研究部門） ガンマ線偏光天文学の開拓によるガンマ線バーストの研究	理工研究域数物科学系・教授	米徳 大輔
平成30年度文部科学大臣表彰・若手科学者賞 革新的原子間力顕微鏡による生体分子の動的構造に関する研究	ナノ生命科学研究所・准教授	柴田 幹大
第15回（平成30年度）日本学術振興会賞 高分解能液中原子間力顕微鏡技術の開発とそのサブナノスケール固液界面研究への応用	ナノ生命科学研究所長・教授	福間 剛士

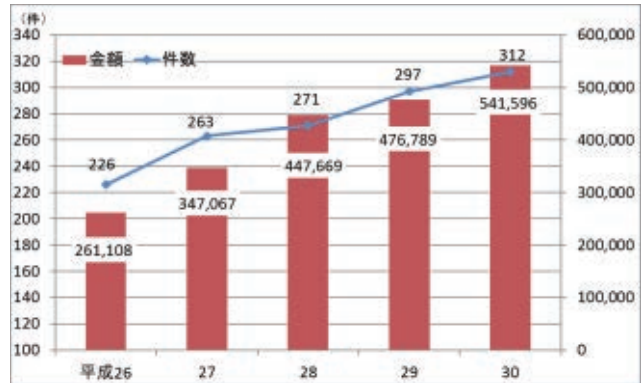
産学連携

□共同研究の状況

共同研究とは、企業等から研究費等を受入れ、民間の研究者と本学の研究者が、対等の立場で共通の課題に取り組む制度です。優れた研究成果をいち早く社会に還元することを目指し、本学も積極的に推進しています。

本学の共同研究における実施件数及び実施金額は増加しており、平成30年度は過去最高となる実施件数312件、実施金額5億4千万円超と、初めて5億円を超える結果となりました。（平成26年度の実施金額と比較して2.07倍）

■共同研究件数・金額（年度別）

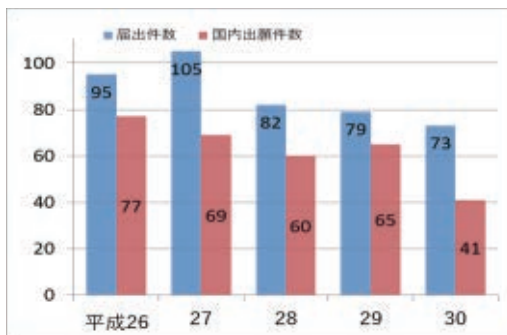


□特許活用の状況

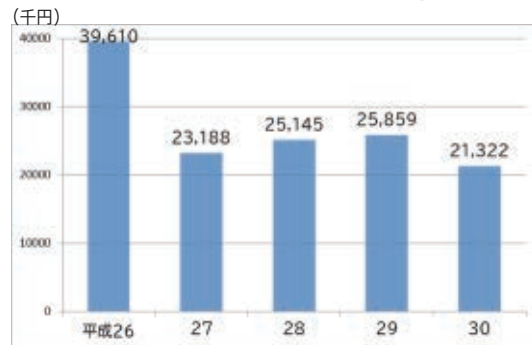
研究の成果によって生み出された大学の特許は、実施料収入等だけを得るのではなく、大学の研究成果が社会で最大限活用されるための手段として利用されています。

特許が社会で有効活用され社会貢献できると判断されるときは、技術移転（企業へ特許の使用許諾をすること＝ライセンス）による活用を図ります。

■発明届出・特許出願件数（年度別）



■実施料等収入額（年度別）



平成30年度の実施料等収入は21,322千円でした。文部科学省「平成29年度大学等における産学連携等実施状況調査」では、ランニングロイヤリティ（製品の売上高等に応じて支払われる実施料）収入があった特許権数で見た場合、全国6位と実効性の高いライセンスを行っています。

□企業との連携強化に向けた取組

本学では、個別の研究課題に限った企業との交流だけではなく、「組織対組織」で幅広く交流して、ともに課題解決を図る産学連携包括連携協定による企業との交流も進めています。

包括連携では、URAやコーディネータを介して、企業の開発ニーズを聞き取り、学内の研究シーズとマッチングさせ、共同研究に結び付けたりしています。

■産学連携包括連携協定一覧

企業名	協定締結日
株式会社小松製作所	平成17年11月9日
澁谷工業株式会社	平成20年5月12日
北陸電力株式会社	平成24年2月10日
株式会社PFU	平成27年2月18日
株式会社日本政策金融公庫金沢支店	平成29年1月31日
トヨタ紡織株式会社	平成30年3月1日
株式会社ダイセル	平成30年7月30日
中日本高速道路株式会社金沢支社	平成31年2月28日

■(株)ダイセルとの協定締結式



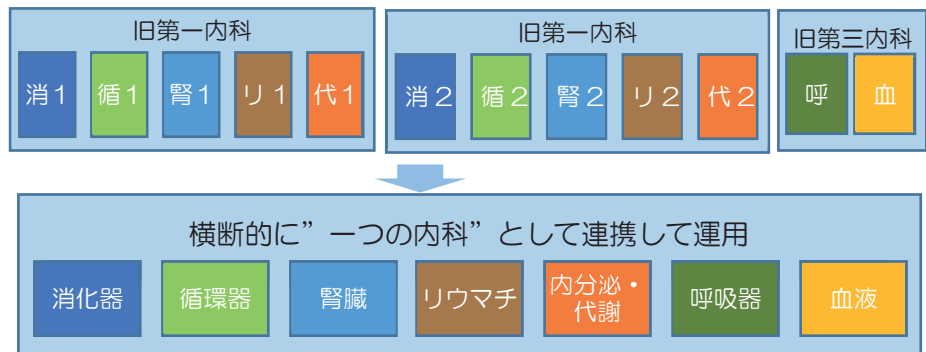
附属病院の特色ある取り組み

北陸全域の医療拠点 金沢大学附属病院



病院の内科再編

平成 31 年 4 月, 旧第一内科, 旧第二内科, 旧第三内科と区分していた内科の枠組みを外し臓器別の 7 分野に再編しました。内科を一体的に運用することで, 地域医療機関からの患者受け入れや, 84 の関連病院への医師派遣を円滑に推進するとともに, 本学の診療, 教育, 研究のさらなる質の向上を目指します。



平成 30 年度に承認された先進医療

先進医療技術名	診療科
腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術 (先進医療A)	産科婦人科

平成 30 年度高難度新規医療技術管理部門承認

技術等の名称	診療科
ダ・ヴィンチ手術システムを用いたロボット支援胸腔鏡下縦隔腫瘍手術	呼吸器外科
ダ・ヴィンチ手術システムを用いたロボット支援下胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	呼吸器外科
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科
ダ・ヴィンチ手術システムを用いたロボット支援胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	胃腸外科
早期発症側弯症に対する growth guidance 法(Shilla手術)	脊椎・脊髄外科
Ex-utero intrapartum Treatment (EXIT)	産科婦人科
婦人科良性疾患に対するロボット支援下腹腔鏡下腔式子宮全摘術	産科婦人科
副腎癌術後多発骨転移再発に対するミトタンとEDP療法の併用療法	がんセンター

社会貢献の特色ある取り組み

さまざまな学びの機会の提供

講習会や研修事業、公開講座等を通してさまざまな学びの機会を提供し、個人の要望や社会の要請に応え、生涯学習の振興そして学びの「輪」の共創と循環に寄与します。

文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP)

本学で実施している3件のプログラムは、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣の認定を受けています。



Brush up Program
for professional

1. 能登里山里海 SDGs マイスタープログラム

世界農業遺産に認定された能登の里山里海を未来に伝える人材を養成するため、能登の豊かな地域資源を正しく評価し、多様な職種の人々との連携により、新たなビジネス創出と誇りある地域づくりにつなげることができる人材を育成します。また、珠洲市と本学が共同で出資（独自予算）し、これまでにない地域と大学の密接なネットワークを構築しています。

これらの人材育成や移住者の定着促進に向けた取り組みが、過疎高齢化の地域課題の解決を図るとともに、地域の地方創生に寄与していると評価され、全国イノベーション推進機関ネットワークが実施するイノベーションネットアワード 2018 において、**文部科学大臣賞を受賞**しました。

2. 金沢大学社会教育主事講習

社会教育主事の資格付与を目的とし、社会教育主事に求められる資質・能力の向上と、学びを通じた絆づくり、活力あるコミュニティの形成に寄与する人材を育成します。

講義のほか、県別研修・現地研修におけるフィールドワークやワークショップ、コミュニケーション力向上のための参加型学習により、地域の生涯学習コーディネーターとしての実践力を身に付けることを目指します。

3.アントレプレナーシップ養成プログラム

地域資源を深く理解・活用し、地域で新産業や雇用等を創出し、地域の活性化及び発展に繋げることができる起業家（アントレプレナー）や新規事業開発担当者（イントラプレナー）を養成するプログラムです。令和元年度から新たに開講します。

金沢大学公開講座

価値観の多様化、高度化する学習ニーズに対応し、一人一人の自発的な学習活動を支援するため、幅広い分野の講座を企画し、生涯にわたる学びをサポートします。また、**珠洲市内、小松市内にもサテライトを設置**し、遠隔地教育システムを導入して、県内全域の学習ニーズに対応しています。



平成 30 年度 38 講座開設 受講者 909 名（うち遠隔地配信受講 69 名）

教育研究拠点「志賀学舎」を開所

平成 31 年 3 月、志賀町地域交流センター内に「志賀学舎」を開所しました。本学舎は、平成 30 年 3 月に金沢大学と志賀町が締結した「ふるさとの資源を次代へと引き継ぐまち・ひとづくり協定」に基づき、同町における教育研究活動の一層の推進に向けて設置されたものです。予防医学研究の推進をはじめ、交通政策や都市計画の分野等における連携も進展させ、志賀町の発展に寄与する教育研究活動を一層進めていきます。



社会貢献の特色ある取り組み

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）
金沢・加賀・能登で地域思考型教育による夢と志を持つ人材養成【平成27年度採択】



学卒者（若者）の地元定着に向けた3つの「地域思考型教育」

1

地域を知り、その価値を学ぶ

ICT教材「地域創生概論」



ICT教材「地域創生概論」で石川の文化・地域資源の理解を促す。平成29年度から、金沢市との連携によりスマートフォンアプリを利用した受講にも対応。金沢大学だけでなく、金沢工業大学・石川県立看護大学・石川県立大学・金沢星稜大学・北陸大学・金沢学院大学・金城大学の**県内8大学約5,500人が受講**

2

リアルな「人」と「企業」の魅力に触れる 共創インターンシップ



学生のキャリア・ライフ・デザイン開発をベースに、県内の優良企業、地域で活躍する社会人とのマッチングを実施。教育フィールドの地域特性を生かしたインターンシップを開発する。**県と共同で開催したインターンシップフェスには本学から334名が、全体で1,587名の学生が参加した**（平成30年5月）。

3

地域発起業家の養成&起業の場の構築 INNOVA-EMOTION



地域から始まる若者のイノベーション発出の場を「いしかわ」に構築すべく、INNOVA-EMOTION(イノバエモーション)をスローガンにさまざまな取り組みを展開。起業プロセスを経験し、夢と志を実現する力を身につける学生起業塾「いしかわ未来アカデミー」や、同アカデミー修了生らが地域ベンチャー支援者にプレゼンするビジネスアイデアコンテストを実施。平成30年度には、同アカデミー修了生により、1社が法人化を達成した。

「地域思考型教育」による地域定着、雇用増に向けた5年間の取り組みにより
石川県内の就職率 10%向上 を目指す

いしかわ学生定着推進協議会（会長：山崎光悦金沢大学長）

COC+事業を推進するため、県内の全自治体と8大学、18の企業・団体等の連携により発足（平成28年1月20日）。

オールいしかわ体制で県内の大学生をバックアップし、学生の県内定着に取り組んでいます。



いしかわ学生定着推進協議会マスコットキャラクター **いしかくん**

留学・国際交流の状況

日本人学生と外国人留学生がともに学ぶ環境の醸成

学生交流の覚書を締結している交流協定校と相互に学生派遣と受入を行い、また、特別な協定に基づいた政府派遣留学生の受入や国費外国人留学生の優先配置プログラム等を通じて、日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨し、学び合える環境作りを行っています。

在学中に1度は海外へ！学生の海外経験の奨励

本学では、交流協定校への長期の派遣留学制度、語学研修や特定のプログラム等による短期留学制度があり、学生の積極的な参加を呼びかけています。また、それらの留学を支援する奨学金制度を設けています。

派遣留学（6か月～1年）

アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、フィンランド、ロシア、中国、台湾、マレーシア、タイ等の本学交流協定校

（平成30年度参加学生数：73人、うち日本学生支援機構又は金沢大学の奨学金受給者数：60人）

語学研修等短期海外研修（1～6週間）

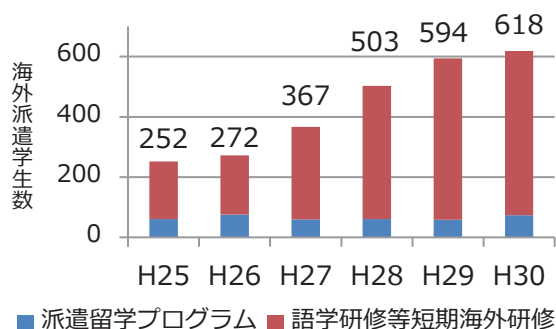
ファーストステップ（タイ、ロシア）、インターシップ（フィリピンイフガオ、カンボジアアンコール遺跡、YKKタイ）、エジンバラ大学英語研修ほか

（平成30年度参加学生数：545人、うち日本学生支援機構又は金沢大学の奨学金受給者数：420人）

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～による派遣

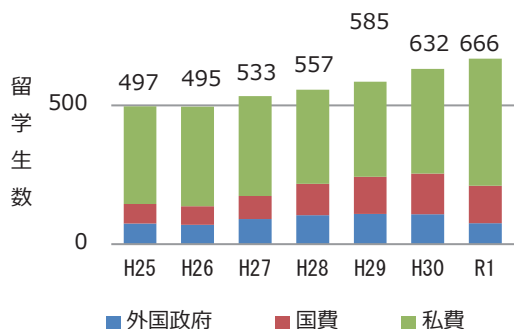
平成30年度派遣数：35人

（平成26年度からの派遣数累計：79人）



優秀な留学生受入の促進

学生交流の覚書を締結している交流協定校と相互に学生派遣と受入を行い、また、特別な協定に基づいた政府派遣留学生の受入や国費外国人留学生の優先配置プログラム等を通じて、日本人学生と外国人留学生が切磋琢磨し、学び合える環境作りを行っています。



国際交流協定の拡充

本学は、世界45か国1地域の機関と協定を締結し、なかでも重点的に学生交流・研究交流を行う19の重点交流校を定め、海外の卓越した大学との戦略的な教育研究連携を推進しています。

総数266機関（45か国1地域）

国際交流協定地域別内訳	大学間	部局間	計
アジア	117	50	167
ヨーロッパ	29	12	41
北米	12	4	16
中南米	8	-	8
ロシア	10	2	12
オセアニア	6	3	9
中東	6	1	7
アフリカ	3	2	5
国際機関	1	-	1
計	192	74	266

国際感覚を育むキャンパス環境

学生・留学生宿舍【先魁】、【北浜】

国際交流を推進しグローバル人材を育成することを目的に、角間キャンパス内に外国人留学生と日本人学生が1つのユニット（男女別）で生活するシェアハウス型の宿舍を設置しています。



国際交流ルーム

留学生と日本人学生の〈学び〉を通じた交流の促進を目的として、「国際交流ルーム」をキャンパス内に設置しています。



教職員・学生の英語力向上をサポート！

金沢大学スーパーグローバル ELP センター※

全学の英語能力向上のため、学生・教職員向けに英語研修プログラムを開講しています。

（センター設置：平成27年3月）

※ELP: English Language Programs



留学・国際交流の状況

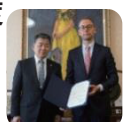
留学・国際交流の拡大を多面的に支えるネットワークとサポーター

海外リエゾンオフィス

本学では、現地学生のリクルートや現地入試、留学のためのサポート、現地との共同研究や海外インターンシップ等の拠点として、25カ所の海外リエゾンオフィスを設置しています。平成30年度には、新たに重点交流校であるプリンスオブソクラ大学（タイ）、デュッセルドルフ大学（ドイツ）、カザン連邦大学（ロシア）にオフィスを新設し、ネットワークの拡充を進めています。

コラボラティブ・プロフェッサー制度

本学の卒業生・修了生等で、海外の高等教育機関に所属し、本学の国際化の推進を支援する教員等に委嘱し、海外現地での学生募集、派遣学生のフォローアップや国際共同研究の推進等の支援を得ています。



海外同窓会

アメリカ支部（H21）、ベトナム（H25）、ミャンマー（H25）、タイ（H26）、中国（H26）、インドネシア（H27）



国際交流アドバイザー制度

学外者に「海外レジデントアドバイザー」、「国際インターンシップアドバイザー」又は「留学生支援地域アドバイザー」を委嘱しています。

国際連携強化教員

海外に強いネットワークを持つ学内者に任命し、国際化推進を強化しています。

国立六大学国際連携機構（SUN/SixERS）

千葉大、新潟大、岡山大、長崎大、熊本大と連携し、各大学の強みを生かして、国際的プレゼンスの向上を図っています。



1. 共同学生交流プログラムの実施
2. 海外の有力大学連合（AUN等）との交流推進
3. 国際化に資するための共同事業

帰国留学生の交流ネットワーク構築の支援をしています。また、各同窓会の代表者が一堂に会する同窓会総会を隔年で実施しています。



ASEAN University Network

ASEAN University Network(AUN)は、ASEAN10カ国の大学が加盟する国際大学連合です。本学は、AUN加盟大学に、日本、中国、韓国の3カ国の大学を加えたASEAN+3 UNetに加盟し、世界各地と学生交流、研究者交流や共同研究を積極的に実施しています。令和2年には本学が幹事を務め、日本で初めての開催となるASEAN+3 Rectors' Conferenceを金沢で開催する予定です。

海外拠点を活用した世界トップレベル大学等との研究交流

国際化を加速する事業

・大学の世界展開力強化事業（ロシア） （平成29～令和3年度）

ロシアの連携機関と学生交流プログラム（文化、理工系分野、医学系分野）を実施し、日露をつなぐリーダー人材を育成します。将来的には、大学間交流を地域間交流に展開します。

・留学生就職促進プログラム （平成29～令和3年度）



・日本海外留学拠点連携推進事業 （令和元年度～）

※採択機関：岡山大

文化交流プログラムで神輿を担ぐロシアからの留学生

・国際共同シンポジウム

若手研究者を中心とした研究交流を促進しています。実績例：ベルギー・ゲント大学、フランス・ストラスブール大学、ロシア・カザン連邦大学、タイ・プリンスオブソクラ大学



・大学院生研究交流会

大学院生同士の研究交流会の開催を促進しています。実績例：ベルギー・ゲント（平成30年2月）、中国・北京（同3月）、中国・上海（平成31年3月）



学習支援

入学から卒業・修了までの手厚い支援

ラーニングサポートデスク

大学院生を中心とした学生サポーターのラーニング・アドバイザー(LA)、留学生の学修サポートを行う留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)、アカデミック・アドバイザー(学修支援担当教員)が学修に関する多様な悩みに対応します。ランチオンセミナーや個人相談を通し、入学直後から大学での学びを支援する体制を整備しています。 ※休業期間中を除く



時間・場所：月～金（13:00～18:00）、中央図書館3階・自然科学系図書館 G1 階(LeCISのみ)

対応者：アカデミック・アドバイザー、ラーニング・アドバイザー(LA)、留学生ラーニング・コンシェルジュ(LeCIS)

具体的内容：①学生に対する学習支援、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法

②講義の受け方、ノートのとり方、テキストの読み方、資料文献の探し方、外国語学習支援

なんでも相談室「～よるまっし～」

「よるまっし」は、金沢の方言で「寄っていきなさい」、「寄ってみませんか」という意味です。気軽に寄っていきえるようにとサブタイトルに取り入れました。

時間と場所：授業期間中の平日、総合教育講義棟2階

予約受付可：電話、メールで予約受付が可能

相談体制等：教員及び学生相談員による相談体制

必要に応じ専門分野の教員や保健管理センターなどを紹介することもあり

内容等：悩みや相談に応じてアドバイスやサポートを実施

相談内容は秘匿



障がい学生支援室

全学的な障がい学生支援体制の整備のため、平成27年度に設置しました。障がい学生のニーズを把握し、障がいの状況に応じてノートテイク、パソコンテイクや学習支援チューターの配置など、適切な教育上の配慮や支援を行っています。



英語学習アドバイザーの配置

日本語も堪能な英語のネイティブスピーカーが、アドバイザールームに常駐しています。日常的に英会話が可能なお場として、英語によるコミュニケーション能力の向上や、留学相談等の目的で多くの学生が訪れ、留学の意義や適切なアドバイスをを行い、留学の後押しをしています。

経済支援

入学料免除・入学料徴収猶予

学域学生においては学資負担者の死亡・災害により、大学院学生においては経済的な理由及び優秀な学業成績により、選考の上、入学料の全額、又は半額を免除する制度や入学料の納入を猶予する制度があります。

平成30年度入学料免除実施状況 (名)

免除・猶予区分	学士課程		修士・博士課程		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全額免除許可	1	14	0	0	15	0
半額免除許可	0	28	4	4	28	4
徴収猶予許可	13	0	0	0	13	0

授業料免除

経済的な理由によって授業料の納付が困難な学生で、かつ学業成績優秀と認められる学生には選考の上、授業料の全額、半額又は一部を免除する制度があります。

平成30年度授業料免除実施状況 (名)

免除区分	学士課程		修士・博士課程		計	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
全額免除許可	519	525	194	181	713	706
半額免除許可	82	196	114	176	196	372

※前期4月～9月、後期10月～3月

経済支援

奨学金

平成30年10月1日現在

本学が取り扱う奨学金は、日本学生支援機構奨学金、地方公共団体及び民間育英団体の奨学金です。奨学生の条件は、主に学業成績が優秀で学資支弁が困難である者です。

日本学生支援機構（JASSO）奨学金（第一種、第二種）利用者数

事項	学士課程	修士・博士課程	計
学生数	7,821名	2,309名	10,130名
利用者数	2,240名	469名	2,709名
利用率	28%	20%	26%

奨励金〔平成30年度の実績〕

- 法務研究科学生奨励支援 月額5万円 : 5名
- 異分野融合型人材育成「大学院GSプログラム」奨学金 月額5万円 : 15名
- スタディーアブロード奨学金
 - ・ 大学院研究交流枠（派遣）（学会、研修、研究及びラボローテーション等） : 77名
留学期間7日以内5万円, 8日以上1年以内JASSOと同額・同じ給付期間※1
 - ・ 学域・大学院派遣枠a（派遣留学） : 26名
 - ①JASSOの成績基準を満たす者：JASSOと同額・同じ給付期間※1
 - ②同上を満たさない者：JASSOと同額を1ヶ月分のみ支給
 - ・ 学域・大学院派遣枠b・c : 131名
 - (b. JASSOに採択された本学の公式海外派遣プログラム) JASSOと同額・同じ給付期間※1
 - (c. 本学の公式海外派遣プログラム, 個人留学, その他の海外研修)
JASSOの月額1万円減を留学期間に関わらず1ヶ月分のみ支給※2
 - ・ 外部奨学金獲得支援枠（派遣留学, 個人留学） : 17名
東京：25,000円, その他の地域：国内交通費相当分
 - ・ 在籍延長支援枠 : 前期 24名, 後期 26名
(海外留学により, 修業年限(標準修業年限)を超えて在籍する学生) 年額：50万円(半期：25万円)
 - ・ 派遣留学報告会アワード : 3グループ(3名)
(派遣留学報告会で優秀な発表を行った者) 1位：5万円, 2位：3万円, 3位：2万円
- ※1 月額/指定都市 10万円, 甲地域 8万円, 乙地域 7万円, 丙地域 6万円
- ※2 月額/指定都市 9万円, 甲地域 7万円, 乙地域 6万円, 丙地域 5万円
- 官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～
H30年度実績：第8期 全国枠7名, 地域枠1名 計 8名
第9期 全国枠10名, 地域枠4名 計 14名

就職支援室では 就職活動をサポート

- ・ 就職ガイダンスの開催
- ・ 就職個別相談の実施
- ・ インターンシップ受入先の紹介
- ・ インターンシップ参加手続き
- ・ 業界・企業研究会等の就職支援プログラム実施
- ・ 求人情報の提供
- ・ 就職活動関連書籍やDVDの貸出し
- ・ 学生向け就職ハンドブックの発行
- ・ 保護者向け, 企業向け刊行物の発行 (ほか)



区分	日程	対象学年	行事
共通プログラム	11月	2年	進路ガイダンス
	4月	3年, 修士1年	
	6月	全学年	インターンシップガイダンス
	4月～11月		キャリア支援イベント
12月		OB・OG交流会	
民間企業志望者向けプログラム	10月～2月	3年, 修士1年	就職ガイダンス
	10月～1月		業界・職種研究ガイダンス
	3月に計5日間開催		業界・企業研究会
	2月	4年, 修士2年	OB・OG懇談会
	3月～7月		面接練習会
9月		合同企業説明会	
公務員志望者向けプログラム	11月	3年, 修士1年	公務員ガイダンス
	4月～2月	3年, 修士1年	官公庁説明会
		4年, 修士2年	
	6月	4年, 修士2年	公務員ガイダンス
教員志望者向けプログラム	3月～7月	3年, 修士1年	面接練習会
	10月～11月		教員就職ガイダンス
	4月～12月	3年, 修士1年	教員採用試験説明会
	6月	4年, 修士2年	教員採用試験練習会

主な行事

進学・就職状況

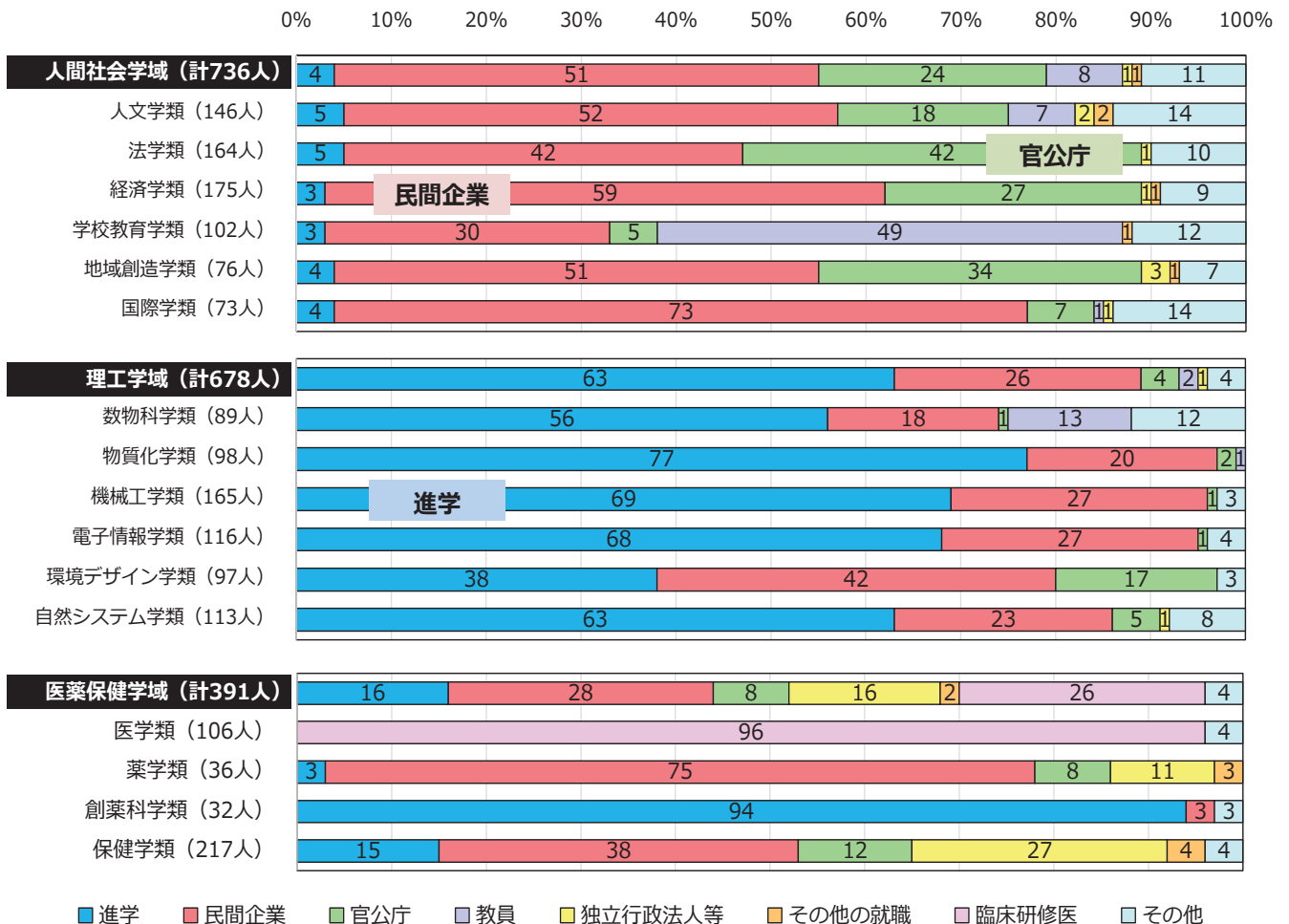
本学の平成30年度卒業生（学士課程）の就職率（就職決定者÷就職希望者×100）は98.9%と、前年に続き高い水準で推移しています。また、「大学で学んだ専門分野をもっと深めたい」という学問探究への意欲あふれる学生や「法曹を目指したい」という学生には、大学院進学之道が開かれています。

進路の特徴は、人間社会学域は官公庁への就職者が多く、理工学域は63%が大学院に進学しており、医薬保健学域は医療機関への就職者が多いことが挙げられます。

平成30年度公務員・国家試験合格実績及び教員就職者

公務員・国家試験合格実績				教員就職者		
試験	合格者	試験	合格者	採用	就職者	
国家公務員	総合職 [旧Ⅰ種]	16名 (国立大学17位)	司法	1名	正規 [新卒]	146名
	一般職 [旧Ⅱ種]	147名 (国立大学5位)	医師 [新卒]	102名 (合格率96%)		
地方公務員 (一部)	石川県職員	31名 (合格者全体の31%)	薬剤師 [新卒]	35名 (合格率97%)	非正規 [新卒]	26名
	金沢市職員	37名 (合格者全体の56%)	看護師 [新卒]	77名 (合格率99%)		

卒業生進路状況



進学・就職状況

3学域・17学類が、みなさんの可能性を広げます。

募集人員（令和2年度入試）

学域	学類	入学定員	募集人員							
			一般入試			推薦入試	帰国子女	AO入試	国際バカロ レア	私費外国人 留学生
			前期日程	後期日程	後期一括					
人間 社会 学域	人文学類	145	100	32	文系 62	—	若干名	—	若干名	若干名
	法学類	170	115	30		10	若干名	—	若干名	若干名
	経済学類	135	110	—		10	若干名	—	若干名	若干名
	学校教育学類	100	64	—		34	—	—	若干名	若干名
	地域創造学類	90	55	10		15	若干名	—	若干名	若干名
	国際学類	85	48	15		15	若干名	—	若干名	若干名
理工 学域	数物科学類	84	64	12	理系 82 (薬学類 を除く)	—	若干名	—	若干名	若干名
	物質化学類	81	55	18		—	若干名	—	若干名	若干名
	機械工学類	100	252	—		—	—	—	若干名	若干名
	フロンティア工学類	110		—		—	—	—	若干名	若干名
	電子情報通信学類	80		—		—	—	—	若干名	若干名
	地球社会基盤学類	100	78	12		—	若干名	—	若干名	若干名
	生命理工学類	59	50	—		—	若干名	—	若干名	若干名
医薬 保健 学域	医学類	100	84	—	15 ※	若干名	—	—	若干名	
	薬学類	35	64	—	—	若干名	3	若干名	若干名	
	創薬科学類	40		—	—	6				
	保 健 学 類	看護学専攻	80	55	9	15	若干名	—	若干名	若干名
		放射線技術科学専攻	40	29	5	5	若干名	—	若干名	若干名
		検査技術科学専攻	40	29	3	6	若干名	—	若干名	若干名
		理学療法学専攻	20	15	—	4	若干名	—	若干名	若干名
		作業療法学専攻	20	14	—	5	若干名	—	若干名	若干名
合計		1714	1281	146	144	134	—	9	—	—

※ 医学類の推薦入試Ⅱ特別枠における募集人員は未定です。詳細は11月頃に金沢大学（入試情報）Web サイトにてお知らせします。

志願倍率（平成31年度入試） 志願倍率は、前期日程が2.3倍、後期日程が7.7倍でした。

学域	学類	前期日程			後期日程			
		募集人員	志願者数	志願倍率	募集人員	志願者数	志願倍率	
人間 社会 学域	人文学類	100	185	1.9	32	239	7.5	
	法学類	L方式	70	203	2.9	30	216	7.2
		M方式	45	102	2.3			
	経済学類	110	261	2.4	—	—	—	
	学校教育学類	64	186	2.9	—			
	地域創造学類	55	149	2.7	10	153	15.3	
国際学類	48	100	2.1	15	134	8.9		
理工 学域	数物科学類	64	110	1.7	12	95	7.9	
	物質化学類	55	125	2.3	18	109	6.1	
	理工3学類前期一括入試 (機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類)	252	506	2.0	—	—	—	
	地球社会基盤学類	78	102	1.3	12	77	6.4	
	生命理工学類	50	119	2.4	—	—	—	
医薬 保健 学域	医学類	84	241	2.9	—			
	薬学類・創薬科学類	64	187	2.9	—			
	保 健 学 類	看護学専攻	55	108	2.0	9	63	7.0
		放射線技術科学専攻	29	74	2.6	5	59	11.8
		検査技術科学専攻	29	65	2.2	3	21	7.0
		理学療法学専攻	15	40	2.7	—		
作業療法学専攻		14	34	2.4	—			
文系後期一括入試		—			62	405	6.5	
理系後期一括入試		—			82	654	8.0	

合格者得点率〔センター試験〕（平成 31 年度入試）

合格者のセンター試験における最高点、最低点及び平均点を得点率（％）で表しています。

学域	学類	前期日程			後期日程			
		最高点	最低点	平均点	最高点	最低点	平均点	
人間社会学域	人文学類	91.5	72.8	78.8	92.5	78.2	86.4	
	法学類	L方式	87.4	72.2	77.9	85.1	76.2	80.5
		M方式	89.9	71.4	76.8			
	経済学類	86.6	68.1	76.3	—	—	—	
	学校教育学類	88.9	68.2	75.2	—			
	地域創造学類	84.1	73.1	77.2	94.0	75.5	88.6	
	国際学類	84.3	72.6	79.4	89.8	81.3	85.4	
理工学域	数物科学類	84.2	64.2	74.6	85.1	78.5	81.6	
	物質化学類	81.9	67.1	75.1	88.3	70.4	79.6	
	理工3学類前期一括入試 (機械工学類 フロンティア工学類 電子情報通信学類)	88.0	65.9	73.7	—	—	—	
		地球社会基盤学類	83.3	65.9	73.6	84.2	74.2	80.8
		生命理工学類	80.3	69.5	75.0	—	—	—
	医薬保健学域	医学類	95.2	80.6	88.1	—		
薬学類・創薬科学類		91.3	72.0	80.6	—			
保健学類		看護学専攻	80.9	63.8	71.3	※	※	※
		放射線技術科学専攻	85.5	70.3	76.3	※	※	※
		検査技術科学専攻	83.0	69.4	75.3	※	※	※
		理学療法学専攻	82.0	65.4	73.3	—		
		作業療法学専攻	80.4	64.1	70.6	—		
文系後期一括入試	—	—	—	94.3	79.0	87.3		
理系後期一括入試	—	—	—	96.6	56.2	83.8		

「※」印の欄は募集人員又は合格者が10人未満のため、得点等を開示しないものです。

入学者都道府県別内訳 (平成 31 年度入試)

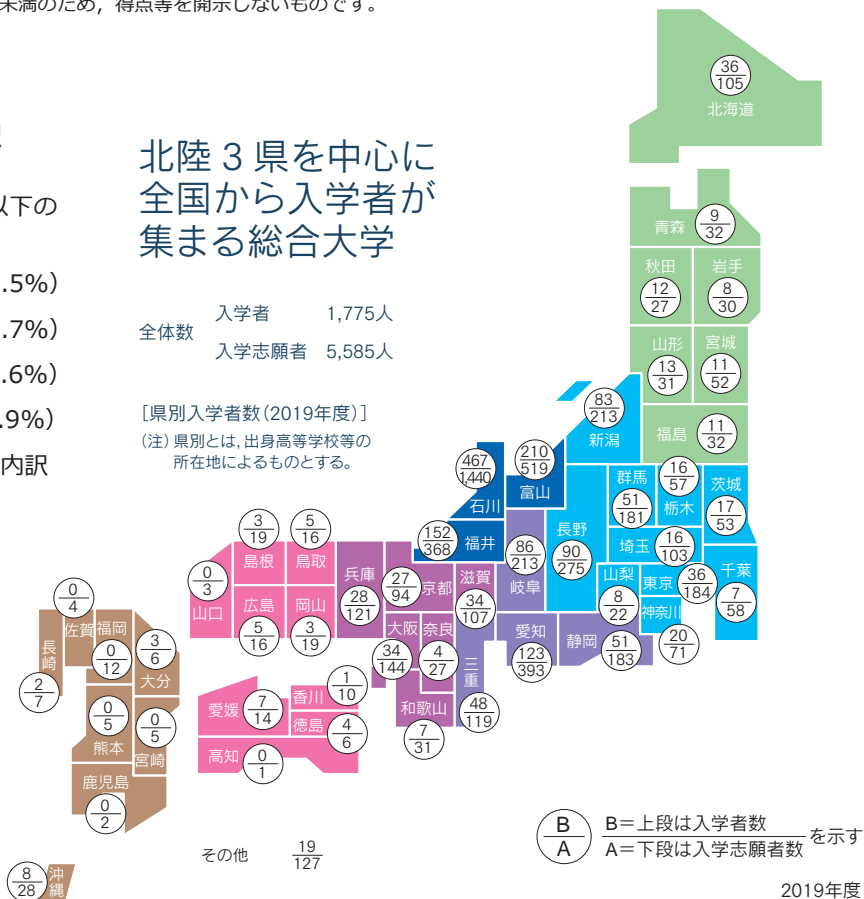
入学者の地域別内訳の順は、以下のとおりです。

- 北陸3県 46.7% (46.5%)
 - 関東・甲信越地域 19.4% (20.7%)
 - 東海地域 17.4% (15.6%)
 - 近畿地域 7.5% (8.9%)
- ※() 内数字は平成 30 年度内訳

北陸3県を中心に 全国から入学者が 集まる総合大学

全体数 入学者 1,775人
入学志願者 5,585人

〔県別入学者数(2019年度)〕
(注) 県別とは、出身高等学校等の所在地によるものとする。

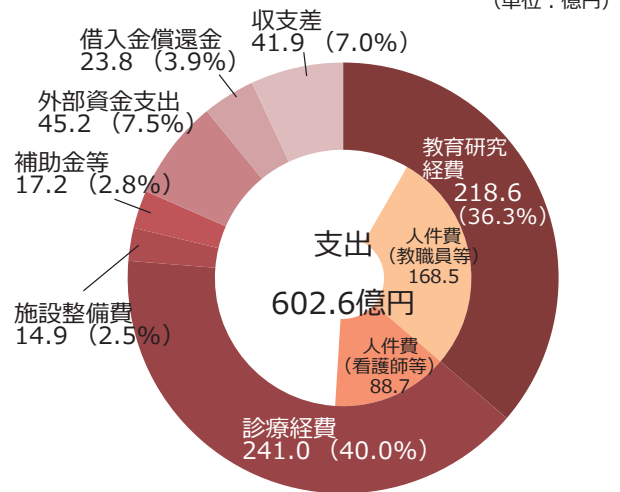
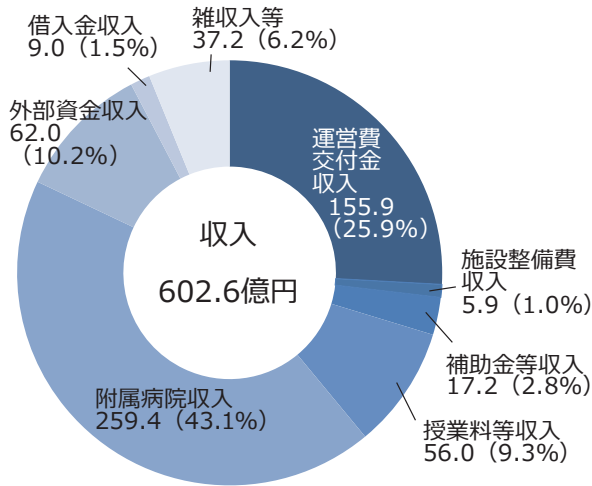


財務状況

～ 困難な財政状況に立ち向かう金沢大学の今 ～

金沢大学の財務状況

速報値：収支決算ベース



収支差 41.9 億円は、次年度繰越等となります。

自治体との比較について

本学の令和元年度予算額は約 576 億円です。金沢大学の予算額を地方自治体の令和元年度一般会計予算額と比較すると、石川県の約 1/10、金沢市の約 1/3 となっています。

【令和元年度 一般会計当初予算額】

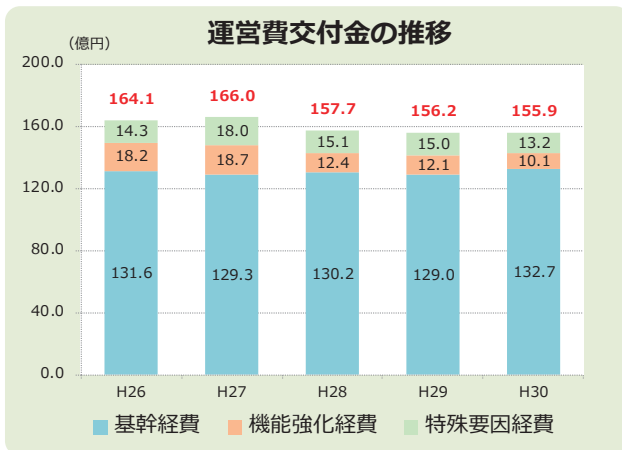
自治体	予算額 (億円)
石川県	約 5,809
金沢市	約 1,721

【石川県に及ぼす経済波及効果】

対象	効果額 (億円)
金沢大学	約 870
北陸新幹線	約 100

本学の石川県への経済波及効果については、北陸新幹線の開通による波及効果の約 9 倍という推計もあることから、地域経済の活性化に大きく貢献しているといえます。
(平成 27 年 2 月 本学教員の研究データによる)

運営費交付金について



運営費交付金は大学の業務運営の基盤となる財源として、国から毎事業年度交付されます。

平成 30 年度は約 156 億円が交付され、これは本学収入合計額の約 26%に相当します。

平成 30 年度の本学への運営費交付金は、基幹経費及び機能強化経費の減額により、平成 29 年度に比べて約 0.3 億円減少しています。

国の厳しい財政状況により、本学の大学運営の基盤となる基幹運営費交付金は減少傾向にあり、この減少分を補うべく、引き続き安定した自己収入の確保、外部資金の更なる獲得及び業務コストの削減に努め、財政基盤の強化を図っていきます。

運営費交付金には、①大学運営の基盤となる「基幹運営費交付金」、②大学独自のプロジェクトや大学改革などに充てる「機能強化経費」、③退職手当や特殊要因等の変動的な経費として「特殊要因経費」があります。

教育関係経費について

平成 30 年度の学生の教育に要した経費は約 151 億円となり、平成 29 年度に比べて、約 2 億円増加しました。

この教育関係経費を**学生一人当たり**に換算すると、**年間約 148 万円**が学生の教育目的に使用した金額となります。これらは、本学が掲げる「専門知識と課題探求能力、そして国際感覚と倫理感を有する人間性豊かな人材の育成」という教育目標の達成のために活用しています。

区分	29年度	30年度	増減
教育経費	2,915	2,935	+20
教育研究支援経費	762	803	+41
教員人件費 ^{*1}	10,562	10,583	+21
職員人件費 ^{*2}	701	771	+70
合計	14,940	15,092	+152
学生数	10,222人	10,227人	+5人
学生一人当たりの教育関係経費	約146万円	約148万円	+約2万円

*1 教員人件費については、教育を目的とした部署に所属する教員の人件費です。

*2 職員人件費については、学生部及び3学域における学生課職員の人件費です。

研究関係経費について

区分	29年度	30年度	増減
研究経費	5,044	5,064	+20
外部資金	4,370	4,181	△ 189
合計	9,414	9,245	△ 169
常勤教員数	1,177人	1,182人	+5人
常勤教員一人当たりの研究関係経費	約800万円	約782万円	△約18万円

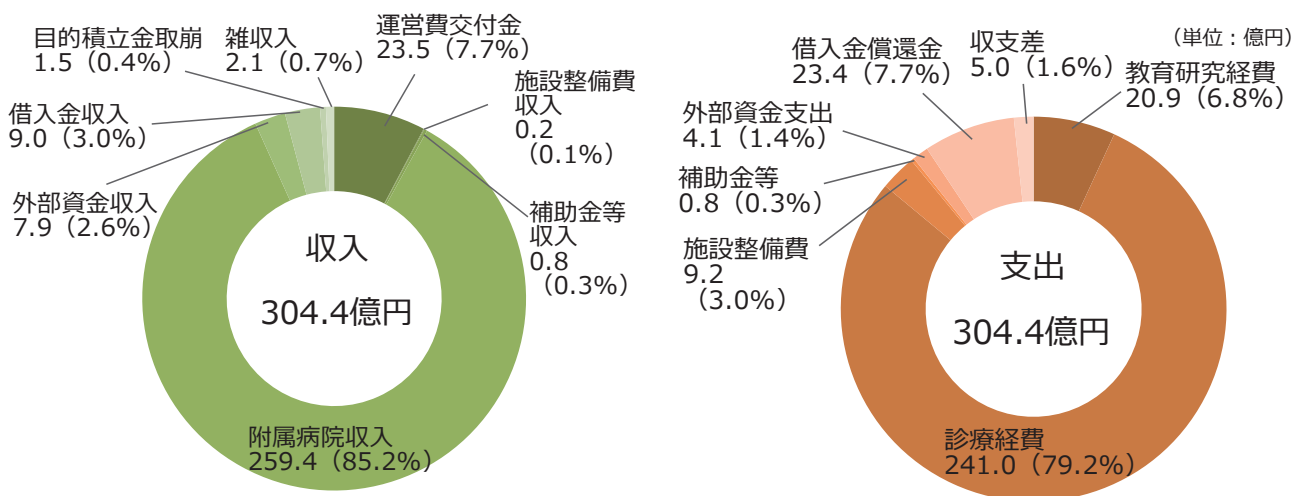
平成 30 年度の研究に要した経費は約 92 億円となり、平成 29 年度に比べ、約 2 億円減少しました。

この研究関係経費を**常勤教員一人当たり**に換算すると**年間約 782 万円**となります。

附属病院について

附属病院収支が**本学の収入に占める割合は約 51%**、**支出に占める割合は約 53%**であり、その事業規模の大きさからも大学全体の財務運営に与える影響は大きく、健全で安定的な病院経営が不可欠です。

そのため、経営状況についての分析とそれに基づく増収に向けたさまざまな取り組みの実施、物品及び役務契約の見直し等による調達コストの削減など、更なる経営改善に向けて努力しています。



※ 文部科学大臣の承認を受けるまでは、金額等の変更が生じることがあります。

施設整備

金沢大学における主な施設整備事業

平成 28 年度	<p>グローバル化に対応した教育研究環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) 学生留学生宿舎「先魁」Ⅱ期新営 ・ (宝町・病院) 駐車場・屋外通路環境整備 ・ (宝町) 保健学類 1 号館改修(Ⅰ期) 	 <p>「北溟」(先魁Ⅱ期)</p>	<p>H28.07~H29.03 H26.11~H28.06 H29.03~H29.11</p>
平成 29 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (平和町) 附属高等学校いす式階段昇降機取設 ・ (宝町・病院) 中央診療棟手術室改修 ・ (角間) 中央図書館空調設備改修 <p>学生支援設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) テニスコート改修(Ⅰ期) (既存テニスコートのハードコート化) ・ (角間) 屋外運動場再整備(金沢大学 SOLTILO FIELD) (産学官連携による既存グラウンドの人工芝化) 	 <p>総合研究棟改修(保健学類)</p>  <p>屋外運動場再整備</p>	<p>H29.07~H29.09 H29.03~H29.10 H29.09~H30.03 H30.02~H30.03 H29.09~H30.04</p>
平成 30 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「金沢大学インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」を策定 ・ (角間) 中央図書館エレベーター改修 ・ (角間) 多目的グラウンド整備 ・ (平和町) 附属学校園防犯設備改修 ・ (小立野) 旧工学部跡地外構とりこわし ・ (角間) 人間社会 4 号館空調設備改修 ・ (角間) 便所機能改善整備(6年計画の1年目) ・ (角間) テニスコート改修(Ⅱ期) ・ (宝町・病院) 病棟無菌治療室改修 ・ (宝町・病院) 中央診療棟ヘリポート整備 ・ (宝町) 保健学類 1 号館改修(Ⅱ期) <p>新たなプロジェクトに応じた施設等の計画的整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (能登町) 能登海洋水産センター施設新営工事【能登町発注工事】 	 <p>多目的グラウンド整備</p>  <p>病棟無菌治療室</p>	<p>H29.12~H30.06 H30.04~H30.08 H30.07~H30.09 H30.06~H30.11 H30.07~H30.11 H30.09~H30.12 H31.02~H31.03 H30.10~H31.03 H30.10~H31.03 H30.10~H31.05 H30.07~H31.03</p>
平成 31 年度 ・ 令和元年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ (角間) サッカー場クラブハウス新営 ・ (角間) 便所機能改善整備(6年計画の2年目) ・ (平和町他) 附属学校空調設備取設 ・ (越坂) 能登海洋水産センター既存施設改修 ・ (宝町) 学際科学実験センター遺伝子研究施設空調設備改修 ・ (角間) 市道トンネル上部法面整形 ・ (角間) 調整池整備(堆砂槽設置) ・ (つつじが浜) ヨット艇庫集会所整備 ・ (角間) ナノ生命科学研究棟新営 	 <p>能登海洋水産センター</p>  <p>ナノ生命科学研究棟</p>	<p>R01.06~R01.08 R01.09~R01.12 H31.03~R02.01 R01.09~R02.02 R01.07~R02.03 R01.07~R02.03 R01.07~R02.03 R01.11~R02.03 H31.04~R02.10</p>
令和 2 年度 以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ (宝町・病院) 第 2 立体駐車場新営 ・ (角間) 自然科学本館コンビニエンスストア整備 		

ガバナンス体制

◆ 教員人事制度

平成 31 年 4 月現在

年俸制 平成27年1月1日導入	獲得した競争的資金に係る間接経費の額に応じて、年俸額を加算する等、業績を処遇に適切に反映する仕組みを設けた年俸制を導入（H31 年度から新たな年俸制も導入）	年俸制適用教員数 206 名 ※全教員の約 20%
リサーチプロフェッサー制 平成27年1月1日導入	優れた教員の確保・研究環境の整備のため、リサーチプロフェッサー制（主として研究に専念する教員・「招へい型」「登用型」「若手型」「拠点型（H29～）」の4類型）を導入	リサーチプロフェッサー数 招へい型 6名 登用型 8名 若手型 17名 拠点型 22名
コンカレント・アポイントメント制度 平成27年4月1日導入	他の機関との協定に基づき、本学又は相手機関の職員がそれぞれの身分を保有したまま、本学又は相手機関の常勤の職員として業務に従事できる「コンカレント・アポイントメント制度」を導入	コンカレント・アポイントメント制度適用教員数 7名

★ 女性研究者支援 ★

研究パートナー制度

子育て・介護中の研究活動支援として、研究データ解析、実験補助、文献調査、統計処理等の研究補助業務を行う研究パートナーの雇用経費を助成

一時的研究補助員制度

妊娠等で研究補助員を必要とする場合に、一時的な補助員の雇用を支援

女性研究者賞

優れた業績を挙げた女性研究者を顕彰することにより、女性研究者の研究意欲の向上・育成等を目的に支援

女性研究者等研究支援制度

女性研究者への研究費の補助

☆女性研究者の割合 17.6%

☆女子学生（学士）：39.7%

☆女子学生（大学院）：27.7%

令和元年 5 月現在

金沢大学国際賞

鈴木大拙-西田幾多郎記念

金沢大学国際賞は、金沢大学にゆかりをもつ鈴木大拙と西田幾多郎に因み、臼井滙氏（昭和 39 年金沢大学医学部卒業）のご篤志を原資として設けられました。本国際賞の目的は、哲学・思想・宗教を中心とする分野で、国際的に卓越した業績を挙げた研究者を顕彰し、これにより、当該分野の研究の一層の進展を促すとともに、次代を担う若手研究者に対して大きな学問的刺激を与えることです。

第 1 回は Girard Frédéric, René, Robert 氏（フランス国立極東学院 名誉教授）が受賞しました。



鈴木大拙-西田幾多郎記念
 第 1 回金沢大学国際賞授賞者
 Girard Frédéric, René, Robert 氏
 （フランス国立極東学院 名誉教授）

授賞式 平成 30 年 6 月 8 日（金）
 会場 石川県政記念しいき迎賓館

その他

金沢大学金沢駅前サテライト

金沢駅前における社会人に対する教育の提供、産学官連携、大学の情報発信等に資する場として、平成 30 年 8 月に金沢駅前サテライトを設置しました。企業との打合せ、会議等での活用に加え、今後は、社会のニーズに対応した高付加価値学習事業の展開を予定しています。

金沢大学東京事務所の移転

東京事務所は、首都圏における学生の就職活動の拠点、教職員の活動拠点、各同窓会の連絡拠点や交流の場として幅広く利用されています。平成 31 年 4 月には日本橋室町 3 丁目に新築された「日本橋室町三井タワー」の 5 階へ移転し、首都圏での更なる活動の拡充・情報発信を進めています。

附属図書館

年間総入館者数は **70 万人** 年間総貸出冊数は **12 万冊**

市民の皆様も年間 **3,200 人** が利用

蔵書数は **191万冊** (前身校からの貴重な学術専門書が多数) 土日も開館

ご利用については Web サイトをチェック! <https://library.kanazawa-u.ac.jp/>

- 来館の利用者 (北陸3県在住者) に直接貸出をするほか、公共図書館を窓口とした貸出・文献複写も可能 (一部を除く。)
- 学生が能動的に学びあう空間、ラーニング・コモンズを全館に設置
- 日本人学生と留学生の日常的な交流の場、国際交流スタジオ・コーナーを全館に設置
- 金沢大学学術情報リポジトリ (KURA) から、本学教職員の学術成果 (論文などのコンテンツ) をインターネット上で世界に向け公開
- 近隣の小学生を対象に、「金大生による“調べ学習”教室」を開催

◆中央図書館 (角間キャンパス北地区)

- ・旧制四高時代の貴重資料を含む、人文・社会系の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・喫茶「ほん和かふえ。」を設置



オープンで明るいラーニング・コモンズ

◆自然科学系図書館 (角間キャンパス南地区)

- ・環境学コレクションをはじめ、理・工・薬学系の図書や雑誌を中心に所蔵

◆医学図書館 (宝町キャンパス)

- ・医学専門の図書や雑誌を中心に所蔵
- ・ブックラウンジに特別支援学校が運営する喫茶「プラタナスカフェ」を設置



くつろぎ空間「ほん和かふえ。」

◆保健学類図書室 (鶴間キャンパス)

- ・保健学専門の図書や雑誌を中心に所蔵

未来図書館構想 「知と創造の学修館」の新設計画を策定

- 新たな知の集積・知的交流の場として「知と創造の学修館」を整備し、様々な学びの場と多様な利用者に関わった交流スペースを提供、人と人との交流による新たな価値の創出を目指します。

資料館

金沢大学の歴史を伝えて **30 年** 文部科学大臣指定 **博物館相当施設** **入館無料**

- 前身校から受け継いだ文化史、自然史、科学技術史にわたる「学術標本」や「金沢大学史料」を収集・公開
 - ・加賀藩校「明倫堂」「経武館」の扁額が金沢市の有形文化財に指定 (平成 29 年 6 月)
 - ・第四高等学校の物理実験機器、著名な宗教家 暁烏 敏 氏の陶磁器コレクション等を所蔵
- 特別展・企画展・出張展覧会等を開催し、学外の博物館等との連携を推進



収蔵資料総数 約 88,000 点

〔モノ資料 77,000 点 文書資料 11,000 点〕

開館時間 平日 10:00~16:00

入館者数 8,308 人 (平成 30 年度)

累計入館者 96,567 人 (平成 31 年 3 月末時点)

同窓会

金沢大学学友会とは

全国と世界に広がる金沢大学学友会

目的：基幹同窓会を中心とした全国的交流と連携を推進する

ことにより、卒業生相互の交流と親睦を図り、併せて大学との連携及び大学の教育研究活動への支援を行い、大学の発展と社会に貢献します。

設立：平成 23 年 11 月

登録団体数：合計 36 団体

基幹同窓会 8 団体

登録同窓会 28 団体（海外同窓会含む）

※令和元年 5 月 1 日現在

金沢大学学友会



ホームカミングデイ

本学では、卒業生・修了生に再び母校を訪れてもらう「ホームカミングデイ」を毎年開催しています。

◆第 12 回ホームカミングデイ（平成 30 年 10 月 27 日開催）

式典参加者：208 名（うち学外者 150 名） 懇親交流会参加者：189 名（うち学外者 147 名）

◆第 13 回ホームカミングデイ 開催日：令和元年 10 月 26 日（土）

金沢大学基金

金沢大学基金

平成 20 年 3 月、本学の学生修学及び教育研究等に係る各種事業を支援することにより、我が国の学術・文化の発展に資することを目的に設立しました。

修学支援基金

平成 28 年 8 月、学生が経済的な理由で修学に困難を来さないよう支援することを目的に設立しました。

金沢大学カード

平成 28 年 4 月、ご利用に応じて得られる手数料収入の一部が金沢大学基金に寄附される、金沢大学カードを導入しました。



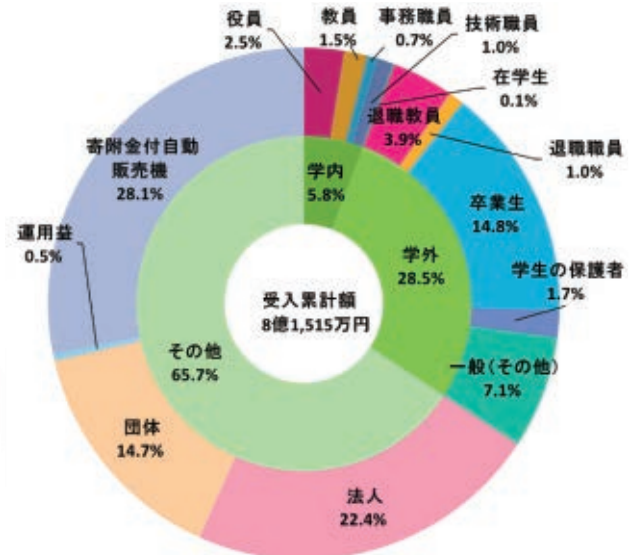
課外活動振興基金

平成 30 年 4 月、サークル活動を支援する目的で設立しました。

学生の国際交流支援事業

学生の派遣、受入（平成30年度から修学支援基金を含む）

項目	日本人学生		外国人学生		計	
	人数	金額 (千円)	人数	金額 (千円)	人数	金額 (千円)
25~28年度	944	80,475	472	57,300	1,416	137,775
29年度	297	18,850	279	24,295	576	43,145
30年度	265	22,745	218	25,153	483	47,898
計	1,506	122,070	969	106,748	2,475	228,818



金沢大学基金は
金沢大学の
国際交流を
支えます

私たちの金沢大学 2019

